

令和2年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

学校運営計画				評価(3月)		
学校運営方針	校訓「立志・錬磨・不愧」に基づき、うきは市唯一の県立高校として、将来の日本を担うグローバル人材を育成する。			B		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標				
<p>昨年度は、学び合いを通じた授業改善により、生徒の授業に取り組む姿勢が積極的になり、学校生活の満足度の高まりを示す調査結果が出た。今年度も学び合いの研修を進め、授業改善と確かな学力の一層の進展を図る。</p> <p>生徒会を中心にマナーアップに取り組み挨拶励行が促され、地域からの評価が高まり、生徒自身の自尊感情や主体性の高まりにも繋がった。今年度は究真館三原則の推進で本校の文化を愛することで、自尊感情や奉仕の精神などの豊かな人間性の育成を推進する。</p> <p>進路指導では、入試情報や求人情報を的確に提供することで、生徒は希望進路を達成できた。今年度は、学系に応じたさらにきめ細やかな進路ガイダンスにより、職業観や探究心の育成を図ることで高い志を持たせ、自己実現に向かわせる。</p>	「高い志」の育成	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育(職業観の育成・生き方の探求・探究心の向上)の推進 担任とチューターによる丁寧な進路ガイダンス 学系に応じた資格取得の奨励 				
	「確かな学力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いによる授業改革の推進(一人残らず50分ずつと学ぶ質の高い授業) ICTを活用した授業づくり 個に応じた学習指導(ハイレベル・標準・基礎)の充実 自学自習の推進 				
	「豊かな人間性」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 究真館三原則の徹底(「時を守り 場を清め 礼を正す」) いじめや差別を許さない人権意識の涵養 達成感を味わい、自信や誇り・愛校心を育む学校行事 生徒会活動の活性化 部活動指導員を活用した部活動の推進 地域等と連携した「総合的な探究(学習)の時間」や学校行事の推進 交通安全教育の充実 社会に貢献する奉仕の心を育むボランティア活動 				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
学習指導	授業規律の確立	黙想指導や挨拶、チャイム席を徹底し、授業規律の確立を図る。 学年と連携した指導を行い、出席率97%以上を目指す。	B A	A	<ul style="list-style-type: none"> 出席率は98.0%と目標を達成できている。だが、遅刻が増えているので、「時を守る」指導を徹底していく。 電子黒板が全教室に配置されたので、研修部や情報管理課と連携して電子黒板の研修や情報交換を行うことで積極的な活用を促し、授業の改善につなげていく。 学び直しを適宜取り入れることで、高校の学習にスムーズに移行できている。今後は学力を伸ばすために学習習慣の定着を図りたい。 	
	「わかる」授業を追求するための授業改革	電子黒板やICT機器を積極的に活用し授業効率を向上させる。 「学び合い」の時間を取り入れ、授業力を高める。	B A	B		
	基礎学力の定着	家庭学習時間調査を実施し、家庭での学習習慣を身に付けさせる。 義務教育段階の学習の学び直しを授業に取り入れる。	B A	B		
	生徒指導	いじめや差別を許さない人権意識の涵養	いじめアンケートや面談を通して生徒のメッセージや変化を捉え、いじめの早期発見・早期対応に努める。 外部講師を通してSNSの適切な使い方やネット上のいじめに関する講演会を実施し、生徒の人権意識の涵養に努める。	B A		B
生徒指導	生徒会活動の活性化	マナーアップキャンペーンを通して各種委員会活動の活性化を図り、生徒の絆づくり・居場所づくりに努める。 学校行事や学年行事では、生徒一人一人が達成感、自信や誇り、愛校心を育むよう生徒会を中心に企画立案を行う。□	B B	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止の取組は計画通り実施できた。人間関係のトラブル防止にむけ、人権意識向上の取組を継続する。 学校行事については、新型コロナの影響で規模やプログラムを縮小・変更したが、生徒会や3年生を中心に意欲的に取り組めた。来年度も感染症防止対策のうえ、学校行事の活性化を図る。 交通安全教育については、自転車の安全運転等の講話を実施した。来年度も交通安全の意識向上の取組を継続する。 	
	交通安全教育の充実	外部講師を通して交通安全講話を実施し、交通安全に対する意識の向上を図る。□ バイク通学者に対して警察署と連携し、交通安全講話や実技指導を行う。□	A A	A		
	進路指導	進路実現100%を目指す	上級学校の入試情報や求人情報などを収集、分析し、的確な進路指導を行う。 進路希望調査を定期的(4月・9月・2月)に行い、生徒の進路希望を把握し、面接指導に役立てる。	B B		B
進路指導	キャリア教育を推進する	進路ロードマップを学年と連携して適宜示し、3年生を見通した生徒育成プランを充実させ希望進路実現を図る。 「総合的な学習、探究の時間」を活用し、進路学習や課題研究の取り組みを充実させ進路意識を高める。	B B	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報の提供や進路希望の把握については概ねできている。しかし、進路実現に向けての指導体制は、就職・専門学校(看護系含む)・短期大学については充実しているものの、4年制大学については充分とは言えないので、具体的な方策を検討し、本校に適した指導体制を構築しなければならない。 多様な進路希望に対応できる育成プランを明確に示すことや生徒の進路意識の向上を図ることができる進路企画を検討する必要がある。 	
	進路に沿った学習時間の増加に努める	進路希望に応じた講演会や進路ガイダンスなどを実施し、進路目標の決定に役立て、学習意欲の向上を図る。 課外・校外模試・勉強会などの学習機会を計画的に運営し、進路に合った学習時間の増加を図る。	B B	B		
	研修	職員の授業力の向上と、生徒が学ぼうとする力の向上	「学び合い」の授業を取り入れながら、生徒一人残らず50分ずつと学ぶ、質の高い授業づくりに取り組む。 月1回の公開授業・研究協議を行い、授業力を高める。	B B		B
研修	ニーズに応じた職員研修の実施	本校の課題に即した研修(3回)、学び合いの効果的な研修(2回)を計画する。 教育センターの研修など、校外の研修への参加を推進する。	B B	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケートより、教員の「学び合い」の取り組みが進んできていることが分かる。 学び続けるための授業づくりのために、さらに教員側の環境作りが必要である。 校内研修については、各分掌と調整し必要な職員研修を実施する。 図書委員会による企画で、教員の推薦図書を紹介した。図書館利用の促進にむけた委員会の活動をさらに工夫する。 	
	図書館の活用促進と読書習慣の確立	朝読書の徹底や、書籍・図書館に関する情報発信を行い、生徒や職員の図書館の利用を推進する。 読書週間の校内放送での本の紹介や読み聞かせ、図書館便りの発行などを通して、図書委員会の活動の活性化を図る。	B B	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
庶務	式典・儀式の計画及び庶務関係行事の円滑な実施	式典・儀式及び行事については、関係部署との連絡を密にし、一ヶ月前を目処に計画する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染防止対策の中での企画・運営となったが、最善は尽くした。 ・式典・行事の計画は例年のものは通用せず、変更を余儀なくされたが、全て実施することができた。 ・PTA活動、同窓会行事は集会ができなかったが、PTA総会は書面に切り替えて早めに対応することができた。 ・次年度も、コロナウイルス感染防止対策を講じながら、早め早めにPTAや同窓会と連携を取っていく。
		行事要項を速やかに作成し、職員に周知徹底する。	B		
	丁寧かつ正確な諸務の遂行	教育必携、学校要覧、新入生のしおりを計画的かつ正確に作成、管理する。	B	B	
		年度当初の職員連絡網、日直、電話当番割などの諸務を確実に行う。	B		
PTA、同窓会行事の円滑な実施	PTA役員との連絡を密にし、PTA活動の活性化とスリム化を図る。	B	B		
	同窓会行事の開催に協力し、育英会奨学生の選考等を適切に実施する。	B			
学校活性化推進	中学校・学習塾訪問の充実	中学校・塾へのアピールポイントを明確にし、職員が共有する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターサイズの縮小化、うきうきスポーツ教室の回数増、ホームページ刷新、SNS各種の開設、動画作成、オンラインオープンキャンパス、うきはバプリシティQ結成、究真フェスティバル等、様々なことが実現できた。 ・新しい取り組みで職員の負担が増えたので、次年度は業務を精選し負担軽減を考慮しながらも、職員・生徒が生き生きと過ごせる魅力ある学校づくりを推進する。
		訪問先の中学校・学習塾からの声をふまえて持参資料等を工夫する。	B		
	魅力ある学校案内の作成	本校で活躍している生徒の声を学校案内により反映させる。	B	B	
		中学校及び中学生の視点をふまえた学校案内の内容にする。	B		
生き生きとした生徒の姿を地域へ発信	ホームページとSNSを活用し、よりタイムリーに、より効果的に発信する。	A	A		
	体験入学、うきうきスポーツ教室等の準備を計画的に行い、中学生や保護者に本校の魅力を伝える。	B			
保健・環境	健康教育活動の推進	定期健康診断を計画的に実施し、健康の保持増進に努める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症防止対策について検討を重ねながら活動を行った。 ・マスクや消毒液などの不足は解消されたが、今後は感染防止に対する意識が低下しない取組を行う。 ・校内の美化活動については、美化委員会を十分に機能させ啓発活動に取り組む。 ・不登校やいじめ問題等の未然防止や早期発見にむけ、スクールカウンセラーと連携し、教育相談を充実させる。
		健康相談を適宜実施し、諸行事における事故を未然に防止する。	B		
	環境美化意識の向上	ごみの散乱防止や美化意識向上に関する情報発信に努める。	C	B	
		定期的に美化活動や清掃点検活動を実施し学習環境を整える。	B		
教育相談委員会を主軸とした組織的な対応	不登校やいじめ問題等の未然防止や早期発見を目指し教育相談委員会を開催する。	B	B		
	問題解決に向け専門医の受診やスクールカウンセラーとの連携を図る窓口としての機能を果たす。	B			
1年	基本的生活習慣の確立	あらゆる場面において、究真館三原則を徹底し、その意義を理解させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活の中で究真館三原則を意識させ、当たり前のことを当たり前にできる生徒を育成していく。 ・時間を守ることはできているので、今後は挨拶等の礼儀指導に力を入れる。 ・漢検・英検の受験者数が一部の者に限られているので、全体への呼びかけと個別の声掛けで受験者を増やす。 ・面談や声掛けで信頼関係を築けているので、継続して生徒把握に努める。
		出席皆勤を奨励し、出席皆勤者50人以上を目指す。	B		
	基礎学力の定着と資格取得の奨励	予習・授業・復習の黄金サイクルを確立させ、学習習慣の定着(家庭学習の増加)をはかる。	B	B	
		各種検定へ対応した学習と積極受験を奨励する。	B		
「心・技・体」のバランスの取れた人間形成	行事を通してクラスの団結を図る。	A	A		
	個人面談を実施し、心身の状態把握に努める。	A			
2年	学びの質の向上による学ぶ意欲の涵養	学び合いによる授業改革を推進し、学びの質を向上させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・漢検・英検などの受験者が増加していることや、普段の授業中の態度から、学ぶ意欲の向上がうかがえる。 ・自宅学習ができていない生徒が多いので、課題の出し方などを工夫していく。 ・遅刻者が多くみられたので、体調管理を徹底させ、寝坊による遅刻をなくす。 ・保護者との情報共有は、学年通信や日々の電話連絡によって、緊密に行えた。今後はメール配信などを活用して、より細やかな情報共有をしていく。
		日々適量の宿題を課し、学習時間の確保と継続的な学習習慣を身につけさせる。	B		
	基本的生活習慣の確立	時間厳守を徹底する。特に遅刻をなくす。	C	B	
		清掃の徹底と身の回りの整理整頓の励行。	B		
生徒理解と進路意識の確率	進路別集会や学系別集会を行い、進路希望確定へ向け意識を高める。	B	B		
	学年通信の発行や必要時の電話連絡等により、保護者との情報共有に努める。	B			
3年	進路実現のための力の育成	授業・課外で基礎学力の定着。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・反復練習やICT機器の利用、グループワークなどを通して基礎学力が身に付いた。 ・入試の情報共有と学年独自の面談で、生徒の希望に沿った進路を選択させることができた。 ・3年間の集大成として、各行事でリーダーシップを発揮し、究真館三原則を実践できた。また、出席皆勤も多く、最終学年としての意識が高まった。 ・活動報告書を通して、3年間の振り返りをさせることができた。
		担任・チューターによる個人面談の実施。	A		
	人間力の育成	究真館三原則を意識した学校生活。	A	B	
		自分自身を振り返る場面を設定する。	B		
社会に貢献できる力の育成	ボランティア活動の紹介・参加。	B	B		
	個々に応じた活躍の場をつくる。	B			